

達成指標の設定について

1 15歳未満で過去1年間にフッ化物応用の経験がある人の割合

現状値	61.2% (R6)	宮城県児童生徒の健康課題統計調査
-----	------------	------------------

◆目標値の設定について（案）

目標値の設定にあたり、「歯科疾患実態調査（厚生労働省）」の「14歳以下のフッ化物応用の経験がある者の割合」を参考とする。下記表は、直近3回の歯科疾患実態調査の結果である。

	フッ化物塗布	フッ化物洗口	フッ化物配合歯磨剤の使用
H28	62.5%	13.4%	62.3%
R4	41.5%	18.9%	58.5%
R6	61.6%	24.9%	73.5%

上記のうち、「フッ化物洗口」のみ増加傾向であるので、「フッ化物洗口」から1年あたりの増加率を算出することとする。

3回の調査結果を元に、最小二乗法により一次回帰直線を求めると、1年あたりの増加率は1.3%である。

令和6年から計画期間の残り11年では14.3%増加することになり、本県の現状値（61.2%）に増加率を加算すると、75.5%となる。

以上のことから、**76%を目標値とする。**

参考：最終評価は令和16年度宮城県児童生徒の健康課題統計調査結果を用いる見込み。令和16年度（令和6年から計画期間10年目）時点での評価値は74.7%である。

2 歯間清掃用具（デンタルフロスや歯間ブラシ等）を使用する人の割合（対象：高校生）

現状値	31.9% (R6)	宮城県児童生徒の健康課題統計調査
-----	------------	------------------

◆目標値の設定について（案）

目標値の設定にあたり、「歯科疾患実態調査（厚生労働省）」の「15～19歳のデンタルフロスや歯間ブラシを使って、歯と歯の間を清掃している者の割合」を参考とする。下記表は、直近3回の歯科疾患実態調査の結果である。歯科疾患実態調査の結果には男女計の数値がないため、男女平均を算出した。

	男	女	男女平均
H28	12.5%	16.4%	14.5%
R4	25.6%	29.0%	27.3%
R6	27.7%	34.8%	31.3%

男女平均から1年あたりの増加率を算出することとする。

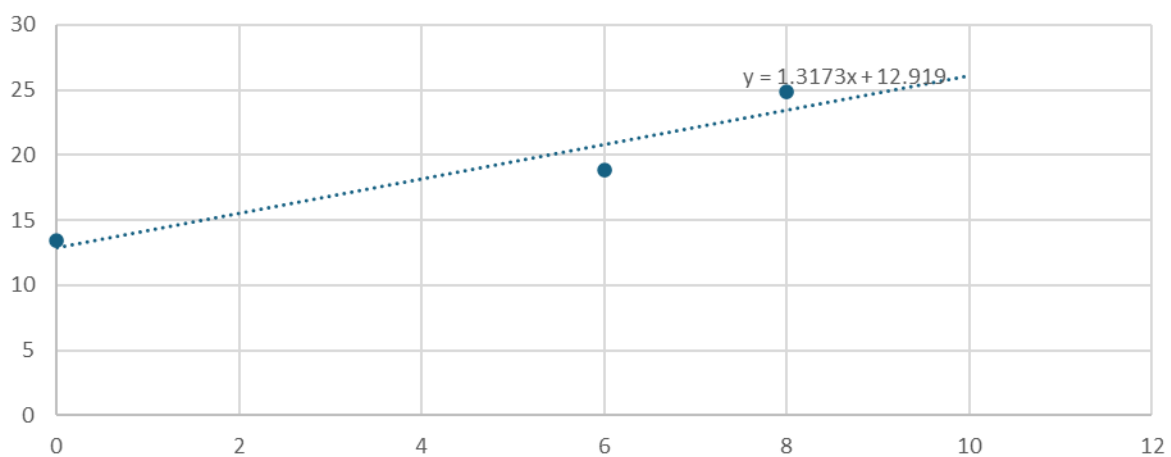
3年分の数値を元に、最小二乗法により一次回帰直線を求めると、1年あたりの増加率は2.1%である。

令和6年から計画期間の残り11年では23.1%増加することになり、本県の現状値（31.9%）に増加率を加算すると、55%となる。

以上のことから、**55%を目標値とする。**

参考：最終評価は令和16年度宮城県児童生徒の健康課題統計調査結果を用いる見込み。令和16年度（令和6年から計画期間10年目）時点での評価値は52.9%である。

フッ化物洗口



歯間清掃用具

